



つむぎだより No.39

＝ 焼肉を楽しみに ＝

毎年ですが、6月～7月初旬にかけて、大抵の社労士事務所は、繁忙期を迎えます。

労働保険の年度更新にはじまり、高年齢者・障害者雇用状況報告書、社会保険の算定基礎の手続、賞与の支払届などもあり、毎日が怒涛のように過ぎていきます。

とは言いつつも、お楽しみはとても大事です。打ち上げの予定は早々に決定しました！！

コロナも明けましたので、今回は「焼肉」です！！事務所近くの気になっていた焼肉屋さんを予約。美味しいものをしっかり食べて、この夏もみんなで乗り切っていこうと思います。 (川東)



★2023年7月号

1、人手不足に陥っていない企業とは

総務省の統計では、2022年12月時点、日本の15～64歳人口は前年同月比0.28%減、人数にすると20万8千人も減っています。

また、これから働く年齢になる15歳未満人口は同じく29万3千人も減少しています。総人口の推移を見ると、2019年以降加速度的に減少しており、2023年5月時点の概算では、総人口は前年同月比57万人減となっています。

◆人材確保の要因

新型コロナの5類移行を受け、多くの企業で人手不足感が高まるなか、「不足していない」という企業もあります。帝国データバンクのアンケート結果で「人手が不足していない要因」(複数回答)として、次のような施策が主に挙げられました。

- (1)賃金や賞与の引上げ(51.7%)
- (2)働きやすい職場環境づくり(35.0%)
- (3)定年延長やシニアの再雇用(31.2%)
- (4)福利厚生充実(26.6%)
- (5)公平で公正な人事評価(22.0%)

(2)の「働きやすい職場環境」は、具体的には、清潔保持や休憩スペース、社内相談窓口の設置などです。また(4)は、労働者が安心できる職場、(5)は労働者自身が成長を感じられる

◆賃上げの必要性

世界的な物価高騰を受け実質賃金が低下するなか、賃金や賞与の引上げに取り組めない企業(あるいは取り組む姿勢を見せていない企業)では、従業員の満足度や安心感が低下して優秀な人材が流出し、そのため企業の競争力低下から新規採用もおぼつかなくなる、また運よく採用できたとしても人を育てる余裕がなく早期離職が起こる、というような悪循環に陥ります。

「人は石垣、人は城」という古語にもある通り、会社を支える一番の力は、信頼できる人の力です。会社を信頼してくれる従業員が1人でも多く育つよう、会社は自らの進む先を示しつつ率先して変わるべきでしょう。

【帝国データバンク「企業における人材確保・人手不足の要因に関するアンケート」】

<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/p230506.pdf>



＝季節のコラム＝

今年は各地で夏祭りが盛大に行われることですが、大阪の夏祭りと言えば「天神祭」でしょうか。

『天満の天神さん』の愛称で呼ばれる大阪天満宮ですが、元々その地所には、白雉元年(650年)、孝徳天皇が難波宮を造営した際、その守護神としておかれた『大將軍社』がありました。道真も藤原時平によって九州大宰府へ左遷させられた際、参詣し、旅の安全を祈願したそうです。道真は903年に没しますが、後に大將軍社の前に7本の松が生え、靈光を放ったという話が都に伝わり、村上天皇の勅命で天満宮が天曆3年(949年)に建立されたのです。

奉納花火では、天神祭のオリジナルの『紅梅』という梅の形に広がる花火が見られます。(鹿島)



社会保険労務士法人つむぎ

〒540-0012

大阪市中央区谷町2丁目1番22号

フェアステージ大手前ビル7階

電話: 06-4397-3358

FAX: 06-4397-3359

Email: info@sr-tsumugi.or.jp

営業時間

平日 9:00~18:00

HP: <https://sr-tsumugi.or.jp/>

2、男性の家事・育児休業等の実態は？

日本経済団体連合会(経団連)から、「男性の家事・育児に関するアンケート調査結果」が公表されました。主な調査結果は次のとおりです。

◆育児休業取得率

○2022年の男性の育児休業取得率は47.5%となり、前年(29.3%)から大きく上昇しました。背景としては、2022年4月に個別周知・意向確認が義務化されたことや、10月より、「産後パパ育休」が創設されるとともに育児休業の分割取得が可能となったことなどがあると考えられます。

◆男性の育児休業期間

○2022年における男性の育児休業平均取得期間は43.7日(約1.5か月)。1か月以上取得している企業は約6割(59.9%)でした。

◆家事・育児を促進するための課題

○男性の家事・育児を促進する上での課題としては、「家事・育児と仕事を

両立する社員の代替要員の不足」が最も多く(83.5%)、これに「無意識バイアスが存在するなど家事・育児と仕事を両立しづらい職場風土」(67.3%)、「長時間労働や硬直的な働き方」(59.4%)が続いています。

ただ、調査対象が経団連の会員である大規模企業であり、サポートが手厚いことに留意する必要があります。課題については中小企業でも参考になりそうです。詳しくは下記をご参照ください。

【経団連「男性の家事・育児に関するアンケート調査結果(2023年6月5日)」】

<http://www.keidanren.or.jp/policy/2023/040.pdf>



3、今月のおすすめ本

今月は「栗山ノート」(著者;栗山英樹 出版;光文社)をご紹介します。栗山さんは、皆さんご存知WBCでの侍ジャパンの監督です。

栗山さんは、古典や経営者の言葉を抜き出しては、ノートに記載し、野球での人づくり、組織づくりの参考にしていたそうです。

プロ野球選手としては、大活躍したとは言い難い選手でしたが(ケガにより引退)、その経験と学びを実践していくことで、日本代表監督として花開いたのだと思います。

個人的に好きなのは、第5章の「ともに」という部分です。

よろしければ、WBCの試合に思いを馳せながら読んでみてはいかがでしょうか。(川東)

